

文京区アカデミー推進計画策定協議会  
第1回国際分科会

日時：平成22年4月20日

午後18：30～20：30

場所：文京シビックセンター21階 2101会議室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

(敬称略)

「出席委員」

座長	久松 佳彰
委員	伊藤 明子
委員	本松 邦廣
委員	佃 吉一
委員	森岡 隆
委員	熊田 美穂子
委員	國分 眞史
委員	小野 光幸

「事務局」

アカデミー推進部観光・国際担当課	小野 光幸
アカデミー推進部アカデミー推進課	橋本 淳一
アカデミー推進部アカデミー推進課	佐藤 祐司
株式会社富士通総研	高橋 誠司
株式会社富士通総研	中川 法子

○**久松座長**：それでは「第1回 文京区アカデミー推進計画策定協議会 国際分科会」を開催いたします。お忙しいところご出席いただきありがとうございます。本日司会進行をさせていただきます久松と申します。どうぞよろしくお願いいたします。まず事務局から出欠の確認をお願いいたします。

○**事務局**：国際交流担当主査の橋本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは本日の出欠についてご説明いたします。森岡委員から若干遅れてこられるという連絡が入っております。また新年度になり、異動等によりまして、委員の変更がございましたので分科会委員名簿をお配りしております。お手元の資料の中、2番目に入れてございますが。

○**久松座長**：座席表の次です。

○**事務局**：新たな委員としましては観光分科会、商工団体の東京商工会議所文京支部からの団体推薦で異動により新保事務局長から中井事務局長に変更がありました。また生涯学習分科会および文化芸術分科会、行政の毛利課長から八木課長に異動がありました。そしてスポーツ振興分科会、太田課長から古矢課長に異動がありました。本日の参加について徳田アカデミー推進部長、および八木アカデミー推進課長が本分科会に参加させていただきます。以上です。

○**久松座長**：ありがとうございます。まず本日は分科会の第1回目でございますので、簡単に自己紹介をしたいと思います。以前にも顔合わせをしておりますので簡単にお名前と所属をお願いいたします。先陣を切って私、久松佳彰と申します。東洋大学国際地域学部に属しております。よろしくお願いいたします。

○**伊藤委員**：文京区女性団体連絡会からまいりました伊藤明子でございます。よろしくお願いいたします。

○**本松委員**：中学校PTA連合会からまいりました本松邦廣です。よろしくお願いいたします。

○**佃委員**：アジア学生文化協会から来ました佃吉一と申します。よろしくお願いいたします。

○**熊田委員**：公募委員の熊田美穂子と申します。よろしくお願いいたします。

○**國分委員**：同じく公募委員の國分でございます。よろしくお願いいたします。

○**小野課長**：観光・国際担当課長の小野と申します。よろしくお願いいたします。

○**久松座長**：ありがとうございます。続いて事務局から配付資料の確認と資料の説明をお願いいたします。

○**事務局**：それでは本日の席上配付資料の確認をさせていただきます。まずお手元に本日の資料を席上に7点、座席表、文京区アカデミー推進計画策定協議会分科会委員名簿（平成22年4月1日現在）のものです。続きまして今後の分科会スケジュール、第4回文京区アカデミー推進計画策定協議会会議録（案）、文京区アカデミー推進計画基礎調査報告書（緑色の冊子）、文京区アカデミー推進計画策定協議会分科会ご意見シート、国際交流関係事業現況整理資料をお配りしております。まず初めに、本日お配りしております資料の中の前回会議録（案）の訂正確認についてでございます。

会議録（案）につきましては、本日お持ち帰りいただきまして、4月27日火曜日までにご確認をお願いいたします。訂正がございましたら事務局へご連絡ください。訂正依頼に基づいて調整した後会議録を公開いたします。訂正は文書でいただきたいと思っております。ファックス・メールで結構です。ただし、非常に簡易なものにつきましては電話でもお受けいたします。その後協議会の会長に確認し、

ホームページ等で公開させていただきたいと思っております。分科会の運営につきまして第1回協議会の際にご了承いただいておりますが、分科会の会議の傍聴、会議録につきましては、文京区アカデミー推進計画策定協議会の運営に準じまして運営をさせていただきますので、ご確認させていただきます。

それでは早速ですけれども資料の説明をさせていただきます。本日の議事進行は、次第に沿って進めさせていただきます。

1ページをおめくりください。第1回分科会の進め方についての資料がございます。こちらにつきましてご説明いたします。1、第1回分科会のテーマでございます。こちらは分科会で何をテーマにするかということですが、1点目はアカデミー推進計画にかかわる文京区の現状を把握し、課題等を洗い出すということです。本日のメインテーマということで、会員の皆様には事前をお願いを申し上げていた作業になります。進め方については後ほどご説明いたします。2点目ですが、分科会は全4回を予定しておりますが、4回の分科会で分野別に取り組んでいく方向性を検討し、まとめていきたいと考えてございます。

続きまして2、本日のプログラムにつきましては、次第と重複する部分がございますのでこの場では割愛させていただきます。

それでは1ページおめくりください。2ページですけれども、Ⅲ 分野別計画の位置付けについてです。こちらは第4回協議会での議論も踏まえまして、文京区アカデミー推進計画策定協議会の山崎会長に確認をし、まとめさせていただきました。まず総論につきましては、基本理念や基本目標、基本的視点など計画全体をつらぬく部分であります。社会状況の変化に応じて修正を行います。次に各論につきましては、分科会にて検討をお願いする部分でございますが、3年間の計画期間といたしまして検討を進めていきたいと考えております。なお、資料国際-2に分野別の体系イメージ(案)、および資料国際-3の各論の構成(案)、ここでは例としまして生涯学習分野を挙げてございますが、それをご覧いただきまして、これから4回の分科会で検討したものを、最終的にどのような形にまとめていくのか、というイメージを持っていただければと考えております。

では元の資料に戻りまして、Ⅳ 分科会の目的についてですが、協議会で議論したアカデミー推進計画の基本理念、基本目標、基本的視点に沿い、分野ごとの内容をより深く議論して分野別の事業例、数値目標例を作成してまいります。その具体的なスケジュールでございますが、Ⅴ 分科会の流れについて予定の表のとおりに進めてまいりたいと考えています。

それでは1ページをおめくりください。3ページになります。本日の大きなテーマとなるⅥ 課題の洗い出し・分野別計画の方向性検討の進め方ということでございます。この後、実際に皆様にはこのシートのSTEP1～STEP4と書いてありますが、順番に沿って作業していただこうと考えております。

では1ページおめくりいただきまして4ページ、こちらは分科会での留意事項になります。全体の司会進行は座長に行っていただきます。会の皆様にはグループ討議を行っていただきますので、その基本的なルールを下の四角に囲った中にお示ししています。少し長くなりましたが、事務局からの説明は以上でございます。

**○久松座長:** ありがとうございます。説明いただきました分野別の位置付けについて、総論部分で示す基本理念などについては、5つの分野に共通する基本的な考え方として、長期的な10年程度の視点から取りまとめていきます。そして各論部分については、おおむね10年程度先の目標を達成するために、平成23年度～3年間で考えられる分野別目標、基本的な方向、事業例について検討し取りまとめていくということを共通認識としてご確認ください。これがほかの分科会と共通認識で進めていきますので、よろしく願いいたします。また、分科会の運営でございますけれども、第4回協議会の中でも議論になっておりましたが、上位計画の新たな基本構想と整合しているか否かについては、私座長と事務局で検証していきたいと思っておりますので、発言については基本構想にとらわれることなく活発に行っていただければというふうに思っております。それでは続きまして、現況の説明を事務局からお願いいたします。

**○事務局:** それではお配りしました「国際交流関係事業現況整理資料」をご覧くださいませでしょうか。こちらに沿いまして、国際分野の現況について説明させていただきます。こちらは主に平成21年度の

実績をまとめたものでございます。

初めに、区民の国際理解および市民交流としまして、国際交流事業を5種類実施しております。大学連携講座、中学生向け国際交流講座は、語学講座として実施しております。次に、英語観光ボランティア育成講座は、区民ボランティアの育成を目的としております。次の国際交流フェスタと英語観光ガイドツアーは、市民交流を目的としております。

続きまして2番、海外都市との交流です。初めに、姉妹都市カイザースラウテルン市との交流といたしまして、公式訪問団の相互派遣とホームステイ生徒交換事業を行っています。次に、その他の海外都市との交流事業としまして、中国の北京市昌平区と韓国のソウル市松坡（ソンパ）区からの代表団の受け入れを行っています。またそれ以外の海外都市視察団の受け入れも行っております。

それでは1ページおめくりください。続きまして3番といたしまして、アカデミー推進部以外の部署で所管している事業となります。こちらの実績は平成20年度のものとなります。初めに広報課所管としまして外国人相談、生活にかかわる相談を行っています。次に教育指導課所管としまして、日本語指導員の派遣、および小中学校における国際理解教育の推進を行っています。国際分野の現況の説明は以上でございます。

**○久松座長：**ありがとうございました。ここまでのご説明等につきまして、何かご質問等がございましたらご発言ください。よろしいでしょうか。では第1回分科会の進め方についての、3ページを使って枠が囲ってあります。文京区の特徴や課題をこちらに用意していただいたカードがありますので、こちらを使って進めていきます。

まず分科会での議論の出発点としては、分かりやすさの観点から新たなる基本構想（素案）の分野別将来像から行っていきます。もちろん、先ほど申し上げましたように、新たなる基本構想（素案）の分野別将来像に会の検討を限定するものではありませんので、先ほど説明いただきました現状や案、それから前回説明いただいたアンケート調査報告書、今回は緑のやつですね。などからいろいろな幅広い項目についてご検討いただければと思います。具体的なやり方の説明については、富士通総研にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。では、お願いいたします。

**○國分委員：**まず黄色の特徴からですけれども、文京区の特徴として、まず江戸時代からの豊富な文化財を持っている。それから特徴の2つ目で、その歴史と文化を生かせる生涯学習のネットワークが構築されているということ。それから3番目は国際交流活動に関心の高い区民が多い。以上が特徴で、次に課題ですね。

それに対して課題ですけれども、今挙げました豊富な文化財を海外に発信していく伝達人が求められるということです。それからそのために、外国人が文京区の文化財の価値を正しく理解できる交流の場が必要である。

それから背景ですけれども、国際交流と国際外交というのは国の単位というイメージなものですから、そうではなくて私たち区民の民際外交といいますか、そういう視点のシフトが背景として必要じゃないだろうかということが挙げられます。それから同じ考え方になるのですけれども、そういう視点で顔の見える自治体として、文京区の地域文化を伝達できる仕組み、具体的には人材とか交流の場が求められる。以上です。

**○熊田委員：**私は特徴と課題について書きました。私の感じたところなので事実とは違うかもしれませんが、留学生・研究者が多い。外国人の方ですね。あとはアジア方面がやはり多いのではないかと。ただ、アジア方面が多いといっても、特定の国に偏る、まあ、中国が多いような気がしますが、群馬とかにあるような工業都市のように、例えばブラジル人が多いとか、そういうふうに特定の国に偏っているわけではないのではないかと思います。あとは外国人に限らず一人世帯、若者が多いと思います。

次に課題ですが、まず1点目は外国語対応のお店が少ない。秋葉原とかと比べると、やはりショッピングがしにくいのではないかなと思うところがあります。あと先ほど國分委員がおっしゃっていたことと同じようなことですが、もしかしたらあるのかもしれませんが、国際交流を取りまとめる行政ではない、ちょっと行政とはまた別の団体での大きな組織というのはないのかなという気がします。そこ

に関連して、今現状で挙げてある事業も継続的ではなくて単発事業になっているように思います。あとは外国人にしても区民の方にしても、交流したくてという気持ちはあるけど、なかなか踏み出せないというところの取り込みが、まだまだ不足しているかなと思います。以上です。

○**本松委員**：今の委員と重なっていますけれども、まずは当たり前の話で大学が多いということ。これは重なると思います。今おっしゃったような、日本を学ぼうとする留学生が多いのだろうなど。日本語等も同じですね。外国なんか増えた、これは別に特徴と言えるか。ただ特徴としていろいろ素材はあるなというふうに思っていますから、交流ネットワークが張れてないなと思っています。

課題で小中学校の事業がありましたけど、学校の中だけだなということで、基本的にはそういう交流の場というのがやはりないだろうし、機会がないのだろうなというふうに思っています。私なんか声掛けの方法も分からないし、その窓口はどこにあるのかなというの分からないなというふうに思っています。先ほど言った大学のほうについては、非常に閉鎖的ですし寄宿舎には当然入れないし、そういうような方法・手段というのが全く分からないなというふうに思っています。

○**伊藤委員**：率直な文京区の印象です。教育熱心な人が多いと思います。それから地域によりますが、お寺とか神社が大変多い。文学や歴史をととても大事にしている、こういうセミナーをやると、どっと人が来ます。それから一人ひとりが高いレベルの知識を持っているなというのは、日ごろ実感しています。講師がお話したときに、すごいところでみんな「うん、うん」とうなずかれたりするので、すごいなって思ったりします。大学が多いということで学問の区だなということを感じます。それから芸術文化を好きだという人が多いです。自主性が高いと思います。1人でもいろんなところによく出てこられるので感心しております。それからこれは長所と欠点と両方に行くのですが、自分というものをすごく確立しているというか「私はこうよ」という人が結構多いように思います。

それから課題ですね。外国人の方、よく見掛けますが、どうしているのかなというのとは分かりません。人材を発掘できるのではないかなというふうに思います。それからお寺とか神社などは、何か古いものをそのまま守っているって感じで、町全体もちょっと沈んでいる感じがするので、やっぱりそういう伝統みたいなものを新しく何か地域に広げるような動きをしてほしいなというふうに思っています。これもどこか似ているのですが、古いものにやはり固執しているなっていう感じはします。裏返しですから新しいものにも目を向けてほしいというか、ちょっと抽象的だったかもしれません。どうしてこんなふうになったのかなっていうほうですが、やはり他を受け入れないような、入れたくないっていう感じの人も見受けられると思うので、ここは自ら変えていきたいと思います。それからやはり同じですね、執着なのです。自分っていう、個を強調し過ぎるというか、なかなかほかのものと同調していただけないようなところも見受けられるような気がいたします。

○**佃委員**：ちょっと考えてみてあれなんですけど、取りあえず私どもの仕事と関係しています。留学生と研究者が東大を含めて近辺に多いと。ほかの区と比べると、はるかに多いなという感じがします。そう言ったこともありまして、少し知的な、外国人の方の知的な側面が少し見えるかなということですね。講演会とかそういったことがありますので、多かったですし、ということです。あとはちょっとよく分かりません。そういうことで特徴とすれば学校が多いですから、若者が多いというのが1つ特徴かなということと、文京区ですから、外国人にとっても日本の近代史、特に文京区は江戸末期から近代ぐらいだろうと思うのです。もっと古いとほかの区で特徴がたくさんありますので、そういったことが少し見受けられるかなと。

課題的なところでは、こういう仕事をして感じるの、新しい住民の入ってくる層が結構おられますが、古い人もいるということで、そのバランスがまだうまく地域社会がつくり切れてないっていう感じがするのが文京区ですね。あるほかの区ですと新しい人が主導するか、あるいは古い方が中心になってつくっていくのですが、文京区はフィフティフィフティなので、しかも若い人もだいぶ入ってきていたりしていますし、古い人は新しく変えていこうという、そういったことがちょっと感じられるかなと。

あとは学校というのですが、9時～5時の学校で、あとは別に文京区と関係なく生活している、特に高等学校、中学校が多いのですが、たまたまここに学校があるからやっているのかなというぐらいで、

あまり文京区の雰囲気のある学生が少ないかな。越境で来られる方が多いせいかもしれませんね。住民と留学生がどうしたら何とか交流できるかと。特に地域の戸建の家は、ほとんど高齢化が進んでおりますので、こういった方々と、特に今我々のほうは日本語ボランティアとかやっただけでいるんですが、そういった交流では少し年配の方々もかなりやっただけでいるのですが、やはりそこにも若い人と年取った人のうまく交流ができていなのかなと。

それから文京区は結構、まあまあそういう意味では知的なところが多いので派手なわけですが、派手というか、そういった見栄えを重視するのですが、ずーっと積み重ねる国際交流がちょっとほかと比べて弱いなど。頭の中だけ空回りしているところがありますから、留学生あるいは外国人に本当に魅力あるかなというのが、ちょっと感じる場所ですね。そういうことで住民の特徴とは一体何か。そこはやっぱり特徴がない人と交流したって面白くないですから、そういった意味で住民自身が本当はどういう特徴があるのだろうという、そこは先ほど言ったようなことで、何かうまくバランスが取れていない、油がちょっと切れた感じ、ギリギリギリと、というような、そうかといって外から見たら綺麗に見えるというような感じですね。

**○森岡委員：**遅れてきて申し訳ありません。うまくまとまっているかは分かりませんが、私も文京区の国際交流には少しお手伝いをさせていただいているのですが、私の今までの経験を少しお話させていただきますと、新潟県の塩沢町(注. 現南魚沼市)というところが、先ほど目的と言われましたけれども、塩沢町はスキーというはっきりした目的がありまして、これをベースにして交流しています。まず一番最初がオーストリアのセルデンという町、スキーの有名なだいが高地ですけどちょっと町の中の中に入ったところなんです。セルデンという町、ここがスキー場を通じて。毎年交流をしてスキーで子どもも向こうへ行ったり、そういう交流をしています。それからもう1つはノルウェーのオリンピックがありましたリレハンメル、これはノルディックスキーを通じて塩沢町の交流をしています。それから今はやっていませんが、アメリカのスキー場とも一時やっていました。これはバブルのときに盛んに日本の企業が向こうのスキー場に資本投下したり、そういういろいろな活動の中での交流をしていました。それから私が今やっているところのニュージーランドです。これはもう25年ぐらいいつたんですが、そういうお付き合いをして、スキーをベースにして中学生の交流をしたり、ジェニー・シプリーという女性が初めて首相になったときに上田町長と議員さんで行ってウェリントンの国会に表敬訪問した。その次の年は中学生がジェニー・シプリーさんのところに訪問しました。素晴らしい経験をしてきたわけですが、あくまでもこれはベースがスキーです。

そういうことから考えると今まで国際交流フェスタだとか、いくつかお手伝いさせていただいている中で、イベントとしては、年々よくなって交流が活発になってきていることは事実ですけど、ベースになるものがやっぱりないんです。先ほど言いましたように、私はそういう意味では例えば学校とか、子どもの交流はもちろん、それから今は生涯学習というものが大変盛んですので、去年の10月に続き、クライストチャーチというところにカンタベリー大学という素晴らしい大学がありますが、その生涯学習のセクションの方にもいろいろ見せてもらったりしましたけれども、そういうところで具体的に結び付いていく。あとは私の得意なスポーツですね。これはどこへ行っても結び付くんです。例えばテニスをやるということであれば、スキーとテニスというのはシーズンが違いますが、皆さんやります。トニー・ザイラーという有名な、この間亡くなりましたけれども、オリンピックで三冠王になった人なんかも夏はテニスをやる。そうするとラケットがあればどこでもお互いに交流ができる。そんなようなことで塩沢町の場合はスキーをベースにしてやっています。文京区もぜひ、何かそういうものを1つでも2つでも多いほどいいと思いますが、これだけ人口がいるわけですし、いろんな方がいると思います。そういう中で交流をしていけばいいのではないかなとは思っています。

そういうことを考えると、それぞれの段階として交流するには、やっぱり場所が必要じゃないかと。今言ったようにスポーツということであれば、いろんなグラウンドとかコースとかというものがあから、そういうことで交流することもできると思いますが、ちょっとどこをやったらいいか分かりませんが、こういうところと、それから、やはりできれば区民の方、いろいろな方が集まれるような、これは今言ったようにそれぞれの場所、それから交流のいい意味でのたまり場、そういうものが、やはり交流の窓口がないとそういう人たちがいても、どこへ行ってどういうことをしていいのかということが

分からないと思います。

それから先ほど言いましたように、やっぱり学校が多いので学校の活用、それからいろんな観光資源と言いますか、お寺もありますし、この近くですと水戸様もありますし、六義園もあります。確か今回の水戸黄門のタイトルのバックに湯島の聖堂、後樂園の名前が出ていますけども、やっぱりそういうふうなことで、水戸黄門を見ている方には文京区がPRしているのではないかなというふうに思います。あとは上野の寛永寺が、ちゃんと名前が出ていますけれど、やっぱりそういうふうなものも有効に活用されていけばいいのではないかなと思います。だいたいですけど、私の経験からそんなお話をさせていただきました。

**○久松座長：**ありがとうございます。皆様素晴らしい意見が出てきたというふうに感銘を深く受けておりますけれども、今聞いて、何かこの場で、とにかくちょっとこれを追加しておかないと、っていう気持ちになっている方はいらっしゃるでしょうか。またいろいろ議論できる機会はございますので、では次に行こうと思います。3ページのSTEPの書かれているものを見ていただきますと、今、STEP2の2番目の印のところまで来つつあるということになります。これから追加したい内容、そのグループ分けをしていく段階でそれに誤りがないか、もしくはこういういいグループがあるのではないかな。課題がいろいろ、それから特徴もいろいろ、背景もいろいろ出ておりますので、それをグループにまとめて、そのグループがいいか悪いかというようなことを議論していくということになります。そこで、今かなり同時進行で進んでおりますが、よろしければ、分類ができましたら事務局、総研のほうから委員の皆様が出された、いろんなインプットについて、傾向というのをご説明いただきたいというふうに思います。

**○國分委員：**それじゃあ、先生、今回配られました生涯学習のところに、地域文化インタープリターの名前が書かれておまして、私は地域文化インタープリターのメンバーなものですから、こういった会の中でもそういう話題が出て来るのかなというふうに思っていて、ただインタープリターというふうにかたかなで書いておいても、区民の皆様から「一体何をしているんだ」というご質問を受けることが多いです。特に、今回9月までご一緒します皆様にはご理解いただいといたほうがいいのかというようなことで、ちょっとインタープリターについて取りまとめておきましたので、ご覧いただければというふうに。

**○久松座長：**國分委員、ありがとうございます。貴重なものを。では休憩はあちらの時計で37分までということで、よろしく願いいたします。

**○事務局：**皆さんに出していただいた特徴を、おおよそこういうふうに分けられるのではないかなというふうにまとめて囲ったものがここになります。こういう特徴があって、ピンクの紙に課題を書いていたのですが、課題についても、だいたい同じようなことをおっしゃっているような意見についてはまとめさせていただいて、多分こういう見出しが付くだろうというふうなものを、今、青で囲っているものがそれになります。もしお考えのものがあればということで、青の紙を書かせていただきましたが、課題に対して皆さんが考える例えば背景があるとしたら、例えば古いものに固執している背景としては、もしかしたら、ちょっと自分に執着しすぎなのかなという背景があるということだったので、こういう課題についてそれをサポートすると、その下にあるものという感じでそれぞれ課題のほうに載せさせていただきます。これの分け方が果たして皆様のお考えと合っているか。あとはこれを見ていただいて、そういえばあのことも言い忘れていたというような、過不足があるかどうかを見ていただいた上で、この後にこういうふうな特徴ですとか課題があるのだけれども、それを解決するためには何ができるのだろうか、ということを考えていただきたいと思います。

最初にちょっとこちらを見ていただいて、私の言っていることはちょっとこれと違ったのだけども、もっとこの紙も必要だということがあったら追記をお願いしたいと思います。

**○久松座長：**どうぞ、ざっくばらんに。



○伊藤委員：大学が多くて全国から確かに大勢の人が来るのですが、卒業と同時にまた流出しているという感じがすごくしますよね。何かその辺の生かし方というのがもったいないという感じが、文京区にとどまってほしいということは、例えば子どもの英語を教えるとか、何か余暇にやってもらえるような、生かし方をしてくれるといいのになというのはいは思ったりしますね。

○事務局：大学が多いところまでいいけれど、その後の課題としては、そのまま卒業して行って戻ってこなくなってしまうということですね。やはり人材がいるのではないかとのご意見をいただいているので、こちらへん一緒になる感じでしょうかね。人材が必要だということですね。ほかに何か気付かれたことはありますか。

○本松委員：さっきお話あった9時～5時の世界の人たちを逆に利用できないのかなと。たくさん集まってさらに地方とか首都圏に、今の逆のことなのですけれども、発信するのだったら、しっかり文京区のか、さっき言われた近代とか江戸時代のことを伝えられるような媒体にならないかなという気がします。大学生の皆さん、学校だけじゃなくて、文京区の中を歩いていただいて、知っていただいて、発信できればいいなと。

○事務局：大学の中にいる人に人材になってもらいたいと。

○本松委員：書を捨て町に出ようみたいな。

○事務局：となると、やはりこの辺で人材として育ててほしい。で、地域に根付いてほしいということでしょうか。ちょっとこちらに、外に出させていただいたのは、多分恐らくこれは解決策のほうにくっついて行くのだろうなと思って出させていただいたものです。だいたい今で出たようだということであれば、次の作業に移っていただきたいのですが、いかがでしょうか。

○久松座長：いかがでしょうか。今は追加したい内容、それから黄色のほうで言うと赤い線で囲まれているグループ、それからピンクのほうで言うと青線で見出しみたいなものが付いていると思いますけれども、ちょっと見にくいかもしれないので、見ていただいてもいいと思うのですが、そのピンクのところの見出しをちょっと読み上げていただけますか。

○事務局：よろしいですか。私からご説明させていただきます。およそこういうような特徴、大きく3つに整理させていただきました。外国から来た人が多いと。そういう意味ではアジアの方が多いけど留学生・研究生の方が多いい等々のことの特徴、あと素晴らしい地域資源がありますよと。あと区民はレベルが高いという表現はちょっと語弊がありますので、意識が高いという表現にさせていただきましたが、そういう区民の方が多い。こういう文京という地域の中で、この青で書かせていただきました、枠で書かせていただいたような課題となる、乗り越えるべきハードルとなるようなものがあるのではなからうかというご意見をいただきました。

まず1つ目、これは観光的なところも関係してきますね。外国語対応というところの店とか標識とか十分でないのではなからうかということが1点です。もう1つ、そういうことをやるような、一応観光協会さんとか頑張ってやってらっしゃるのですが、その窓口というものがもうちょっと十分機能したほうがいいのではなからうかということが1点。あとその場合は機会ということの場ですね。交流する場みたいなものが十分じゃないかもしれない。こちら側に回りまして、今申し上げました機会、特に継続的に取り組んでいくような取り組みや機会というものは十分ではないのではなからうかな、ということをいろいろいただきましたということです。そもそも交流の目的は何だろうというようなことをしっかり目的意識を基にやっていくということが必要なんじゃなからうかということをお願いしました。

あと、これは区民の、文京区の、この前もちょっとお話をしましたけど、地域性、区民性というのがあって、ちょっと閉鎖的といいますか、古いものに固執したり新しい住民が来てもなかなか受け入れる

コミュニケーションが難しいという地域性があるかもしれないね、というようなこと。およそそういうようなことをいただきました。今プラスアルファですね。せっかく日本有数の東大とかお茶の水女子大とかあるのに、そういうような地域人材が残っていかないというようなところももったいないというところと、あと在勤・在学者が文京を知って、またファンになっていって、国際交流とか地域のところのファンになってもらうという機会が十分でないね、というようなことをいただきました。このような課題意識を基に、じゃ、こういう課題、まだ不足しているものがございましたら、ぜひプラスアルファでいただきたいというのが1点と、これを解決するために、こういうようなことをやったらいいのだろうなということをご意見いただければありがたいなということでございます。

○久松座長：まずはグループ分け、こっちの見出しよりあっちの見出しのほうがいいのではないかっていうようなことですね、何かございますか。こんな見出しでほしい出尽くしたかなという、まずはところでよろしいでしょうか。

私からは先ほど国際交流をする場所っていう話があったのですが、本松委員が時間っていうことをおっしゃられましたね。国際交流をする時間っていうのが、実はちょっと障害になっているのがあるのではないかっていう気がするので、場所と時間とか、時間だけ足していただいてもよろしいと思うのですが。それをちょっと足してみたいなというのがありますが、何かございますか。

○本松委員：あと、世代も少し。私、小中学校からいろいろ皆さんのように、本当に造詣の深い方からいろいろいるので、それに対応するようなお話がもしかしたらいるのかなと。それぞれの世代・年代で違うのだろうなという気がしておりますので、世代間交流というか、世代間国際交流というのか分かりませんか、何かそういうような留学生の方も結構年配の方から若い方までいらっしゃるかな、なんて思っていますので。

○久松座長：そうですね。今回、緑の冊子になっております基礎調査報告書では、横切りにいろんなタイプがあるっていうのが、かなりくっきり見えてきたということですが、さらに横切りというのですか、その世代のところでもいろいろギャップがあるかもしれないというようなことかと思いますが。ほかに何か。じゃ、グループ分けを除きまして、とにかくこれを見て、何か今言わないと忘れちゃうかもしれないというようなこと、何かございますか。

○佃委員：場所ですが、やっぱり夜まで人がいる、人気のある場所で人が触れ合うというのが非常に重要で、そういう公民館機能が9時～5時で終わって、あるいは「はい、終わりました」っていうような場所では人は集まってこない。まあ、私どもの場合は宿舎があるので11時ぐらいまでやっているものですから、おかげで辛いところもあるのですが、結局人恋しさに人は集まってきて、そして話をして、ま、留学生あるいはほかの地域に住んでいる日本語とか習っている、でも教える人も、人がいるところでは楽しい。でも、これがどこかでもがらんとしたところでやれと言っても、面白くもなければ何ともないというようなところで、そういう場所の作り方、それから時間のやり方、そういういろいろなものが外国人のために、特別税みたいなもので施設をオープンにして、呼び込みやすいような何かができるのか、そういう意味での場所・人・時間というものがもう少し町にできて、今、文京区が持っている資源をもう少し有効に使えるといいかもしれないなと思いました。

○久松座長：ありがとうございます。だんだんその解決案、提案に近いところまで来たかと思しますので、この式次第に戻ってSTEP3にいてみようと思うのですが、よろしいでしょうか。

○森岡委員：すみません、会議を止めるような発言かもしれませんが、文京区が姉妹都市を今、カイザーラウテルン市に持っておりますが、文京区が国際交流をするという、そもそもの原点は何なのか。これは塩沢町の場合はスキーということを原点でやって、それからいろんな発展をしたわけですが、文京区の国際交流のベースは何でしょうか。皆さんは分かっているかもしれない。私、ちょっとその辺の整理が自分自身にまだできてないから、その先に進めるということが非常に、今具体的に

ろいろ問題が出ているというのです。それはそれで進めることは非常にいいことだと思うのですが、文京区、将来の子どものために国際交流をするということであれば、ある程度そこに目的が絞られてきますから。じゃあ、これからやっぱり高齢者の時代なので生涯学習というか、元気でやはり長く豊かな人生を送ってもらおうというふうな考え方からすれば、そういう方たちとの交流という切り口もあると思うのですけど。そうすれば具体的に問題がはっきりしてきますね。

**○佃委員：**昔からこういう自治体なんかもみんな、姉妹都市からだいたい始まっているんですよね。姉妹都市というのはだいたい欧米へのあこがれ、アメリカはない、ほとんどヨーロッパですね、最初は。結局あこがれとある程度の層だけが行って、じゃあヨーロッパの文化は全部取り入れるつもりで送ったかっていうミッションじゃないのですね。そういう時代がまだ息づいているから、多分どの区も国際交流の予算の半分、3分の2ぐらいをそれに使っているのです。これがほかの自治体もだいたい似ているのですね。だからそこから脱却できてないのです。

お金がたくさんあれば、もちろんそれもいいのですが、ただそういう発想からは多分、自治体の国際交流は、まだ抜け切れてない。ただ問題が、だんだん区によって生活とかいろいろ問題が出てきたので解決型の国際交流というのが今出始めているところですね。文京区はその問題解決型は基本的にはまだ発生していないのですね。ですから国際姉妹都市へ行くことの予算をヨーロッパで相当使っているはずだと思います。そういう辺りから今おっしゃった文京区が新しい時代の国際交流というのは、本当は何のためにというのが今提示されたのは、それもなるほどそうかなという。

**○森岡委員：**それと一説によりますと、やっぱり今の若い人たちが海外に出たがらない。中国・韓国は今非常に出ていますよね。やっぱりそういうことが国の将来といえますか、いろんな知識が遅れてしまうということと結び付いてくるのではないかと。だとすれば、文京区は率先して何かそういうシステムを考えるとかな。

**○國分委員：**よろしいですか。私がこの右端にちょっとずれましたけども、民際外交と書きましたのは、私が海外にいたときにボランティア活動のお手伝いをしたことがありまして、国際交流というか。海外の立場から、海外の方が日本の自治体との交流ということで、浜松とアメリカのロチェスターとか、結構成功例は見てきていますけれども、今のお話の中で国際という日本語の国のサイドから言いますから、どうしても国の単位にとらえがちになってしまうのですけれども。海外の方から見ると国と国との国際外交というのは姉妹都市協定とか国際交流であまりイメージがないのですね。いわゆる市民と市民との交流。ですからヨーロッパの方もアメリカの方もそうなのですけれども、もう、海外の魅力のある、自分たちに何か教えてくれる、そういう価値を持った自治体を見つけて、そこと今、本松委員もおっしゃられましたけれども、お子さんの交流とか、そういうことを小さいときから育てていこうというのが、欧米ですと100年ぐらいの歴史が培ってしまっていて、いわゆる市民単位で、行政が引っ張っていくという国際交流というのはあまりないのです。

アジアの場合は、私はシンガポールに長くいましたが、ちょっとこれは違うのですけれども。欧米の場合はそういうことが一般的です。ですから自然の形で出て来るのですけれども、私自身が、この国際交流を考えた場合に、いわゆる市民単位のことと相当こだわらなければいけないなと思っているのと、文京区というのは東京の各区の中の1つの区ですから、非常に海外の方から見ると分かりづらいのですね。文京区というものが、東京を分かる方は多いのですけれども、文京というのはなかなか分からない。ということはやっぱり、文京区というものを、東京のほかの自治体と比べて競争しながら魅力を打ち出していかないと、なかなかいいパートナーというか、相手方とのつながりができないのではないだろうかというのが私の率直な見方です。

今森岡委員がおっしゃられたスキーもそうですけれども、私の出身は愛媛県の今治ですが、今治市も国際交流を上手に活用して産業の活性化を図っています。造船業ですごく成功例があって、そこで非常に造船業の若い世代も育っています。今治という都市というのはご承知かどうか、いわゆる水軍という歴史があるわけですね。歴史を子どもたちに学ばせて、なぜ室町期の村上水軍というものがあれだけの力を持ったかという背景を学ばせて、その中に出てきたのが造船業とか、それから海運業とか、で、船を操

る操船業とかそういうものがいろんな形で歴史の勉強をして、そののところに今の造船業と海運業が成り立つのですけれども。それは地方自治体としてそれに着目したアジアの、韓国とか、中国とか、そういう方たちが、1つの自分たちのビジネスとして、いろいろなことを学びたいということで結構訪問される。ということですので、ちょっとそういうところで総括して申し上げると、歴史というものをきちっとした形で伝えていければ、その特徴は出るだろうと。

今のお話もそうですけれども。至近な例で挙げますと、葛飾区は今ウィーンと姉妹都市協定していますけれども、葛飾の方に聞きますと、あるときウィーンの市長さんが日本へいらっしゃるときに、飛行機の中で寅さんの映画を見た、素晴らしい文化遺産を持った都市だということで、降りてすぐ葛飾区の区長のところへ行って姉妹都市協定を交わしたという話を聞きました。文京区として海外の魅力のある都市を見つけるということがまず1つなのですけれども。その都市との間で何か文京区を訴えるものを見いだすことが必要なんじゃないだろうかというように思いますね。

そういうことを支えるのはやっぱり市民の視線と、そういう目で見るとということがやっぱり必要だなと思いますので、私がおこへ、江戸時代からのとか書きましたのも、文京区のほかの区との特徴は何だろうかと考えた場合に、やはり江戸時代からの文化資産が非常に多いということ海外に伝えていくことができれば、非常に具体的なイメージとして伝わるのかなというふうに思ったのですね。

**○伊藤委員：**昨年、10月17日～23日まで、このプリントに書いてありますが、カイザースラウテルン市との姉妹都市交流ということで、文京区女性団体連絡会から5人の女性たちが区長とお供させていただいて参加してきました。女性の視点から見たヨーロッパのワークライフバランスをテーマとしてということだったので、私たちが選ばれたというふうに考えております。それで今までは、あちらにはすごく立派なサッカー場があったりするので、サッカー少年の交流、それから日本文化としてお茶だとかお花だとか、そういったものを披露するというような交流の仕方をしていたようですが、このタイトルでこのテーマで行ったのは初めてでしょうね、恐らく。私たち参加してすごくよく理解ができたというのは、いわゆる生活のレベルの視点で話し合いができたということですね。ですからボランティアの問題とか、あるいは仕事と家庭のバランスをどう取っているのか、そこから出て来る子育て支援についてなどが話し合われました。そういう点ではどこの国でどんな言語が違っていようとも、そういった点では共通点があるわけで、学ぶところはとでもたくさんありました。

ドイツはちょっと日本に似ている感じがしましたが、フランスなんかは子育てとか女性の地位というものは大変高いところですから、日本もまだまだ学ばなくちゃいけないなって。例えば女性が1度退社しても、また同じ会社に同じ役職で戻れるとか、そういったことは日本ではあり得ないですから。そういう意味ではすごく平等感、ジェンダーの問題も日本は大幅に遅れているというか格差があるなというようなことも学べましたので、これからの国際交流って、例えば先ほどどなたかおっしゃった高齢者の問題とか、高齢者の生きがい問題だとか、そういった視点でいったら国際交流も姉妹都市も、また違った分野で交流が深まっていくし、学びも多いのではないかっていうふうに思いました。

ただ日本の文化を教えるとか、あちらのスポーツを学ぶとかってことだけではなくて、私たちが生涯そういう隔てのないレベルの学びをするための交流であつたら、もっともっと広がるのではないかなということを実感させていただきました。参加させていただいたおかげだと思っていますけど。以上です。

**○小野委員：**文京区が目指す国際交流、これが多分一番基になるかなと思うのですけれども。事業の今の現況を整理しようということで、お示しさせていただいたのですが、今国際交流事業として行っているのは語学講座であったり、これからの講座を通しての人の育成、そしてあと市民交流、それと姉妹都市の交流であります。姉妹都市交流というのは行政同士が約束をして、そこから市民を巻き込んでいきたいと思いますということではなくて、文京区の場合、市民同士の交流から盛り上がり、友好都市になって、姉妹都市になっていくという形なので、文京区が目指す国際交流って市民同士、市民間の交流を活発にしていきたいということです。ですから、最終的には目指す形というのは区が直接関与するのではなくて、立ち上がり時期には関与が必要であったり、支援が必要であったりするかもしれませんが、さまざまな世代、さまざまな団体が自立して自主的に継続して交流していける、こういうものを目指していきたいという国際交流を考えています。

○久松座長：多分、この話でずーっと議論できると思うのですけれど。

○森岡委員：すみません。

○久松座長：いや、そうではなくて、森岡委員がすごく大事な視点を出していただけたと思うのです。つまり何をベースに国際交流を考えていくのか、國分委員の事例もございましたし、つまり腰が据わってないとぶれるわけですね。まさに、その我々の特徴ってところで外国から来た人が多い。特に変わらないものは、素晴らしい地域資源が多いってことです。やや変わりにくい、意識の高い区民が多いということですね。今のところはこれをベースに、スキー場、多分雪もそれほど来年は降らないでしょうとかいうこともあるでしょうから、ここをベースにやっていくことになるのではないかと私は想像しております。

ただ、議論闊達が大事ですので、ひとまずはちょっとここで、せっかくここまで出ましたので、一応議論を解決策のほうに、これはこれとして、はき出してしまおうというのをやってみようと思います。多分、今日このまま帰っちゃうと、何か思い出したことが書けないまま行ってしまって、それで非常に優秀な事務局に整理してもらって機会を失ってしまうと思いますので、この後またたくさん議論をする機会は第2回以降の分科会でもございますし、取りあえず課題への解決策というSTEP3に行ってみようというふうに思います。

進め方のところをもう一度見ていただければというふうに思いますが、STEP2で検討した課題、つまりピンク色のもので書かれたいろんな課題がございます。一応どの課題で対応して行こうかなというように念頭に今、多分黄色のカードがまたたくさんあると思いますので、どの課題に対する案かということ念頭の上、こんな解決方法があるじゃないですかと。それは当面は多分、予算度外視でいいと思います。それをカードにご記入いただいて、それで貼って眺めてみようということをしてほしいと思います。ピンクの課題に対してどういう解決方法があるじゃないかということで、カードにご記入いただければと思います。よろしく願いいたします。

○久松座長：1人2分ぐらいで、まずは言ってみるくらいベースでご発表いただければというふうに思います。まだ書いてらっしゃる方もいらっしゃると思いますので、また同じで聞き耳を立てていただくという感じをお願いしたいと思います。先ほどと同じ順番でよろしいですか。

○國分委員：まず私のほうで申し上げたのは、この豊富な文化財を発信していく伝達人が求められるという課題については、文京区の生涯学習講座で育成された人材を活用しなきゃいけないという生涯学習分科会の課題がありますけれども、それと関連してその人材をフルに活用することによって文京区の歴史と文化を海外に効果的に伝達をしていきたいということが1つ目になります。それと全く同じですが、これは私がインタープリターにかかわる直接なきっかけになりましたのは、伝達人という表現をしていますけれども、歴史と文化を伝達するジュニアを育成したいなということで、国際交流に小中高校生が参画できるような仕組みづくり、そういう若い世代の養成を文京区の国際交流としてやりたいということがあります。それから国際交流の場が必要であろうという課題につきましては、こういう名前が適切かどうかはあれですが、国際交流センターというものを新設して、それが1つの窓口、中核になって既存のいろんな施設があるわけですから。文京ミュージネットとか、いろいろ歴史と文化を伝える、文京区の中の既存施設のいいものがあるのですから、それを国際交流のプレゼンができるような場に再構築ができないかと。具体的には姉妹都市の協定を交わした場合にも、それに対してプレゼンをする場が必要になってくると思いますけれども。ふるさと歴史館とか、そういうことを中心にして、それを国際的に、国際交流の仕組みとして使えないかということで、まとめると今までの人材とか施設を国際交流という視点で、ネットワークで結ぶことによって仕組みづくりができないだろうかということです。以上です。

○熊田委員：まず英語がというところで、中小企業に対する英語講座とか商品確立って外国人向けにそ

れをつくることはないと思うのですが、外国人にも受けるようなものがあれば、そういうものをアピールしていけるような、そういう企業に対するサポートも必要かなと思います。

あと、國分委員も先ほどおっしゃっていた国際センターのような形で、何か継続的事業を実施するための組織づくりが必要だと思います。あと、先ほど閉鎖的というお話があったかと思うんですが、自治会、町会とかの開かれた運営も、例えばマンションの1階に「今度ランチ会やります」とかっていうチラシが貼られていても、やはり行きづらいというのがあるので、もうちょっと違った形で開かれた運営がされて、お互いに歩み寄れるというか、お互い参加しやすいような形の何か、いい案があればいいかなと思います。全体的になんですが、インターネットの活用があまり進んでいないところもあるのかと思うので、インターネットを活用することによって交流が、特に若い世代の交流がそこで盛んになって、そこで知り合いになったから「じゃあ、ちょっとランチ会行ってみようか」とかっていう部分が一步になると思うので、それも入れました。以上です。

○**本松委員**：最初に、今お話があったように基本的には店とかありましたけれども、店とか社寺とか案内板とかいう、要するにもう、歴史文化資源の案内板みたいなことをとにかく作りましょうということ、今お話ありましたフリーダイヤル、ロコミダイヤル、フリーホームページ、掲示板とか、とにかくそういう発信できる場を設けたほうがいいのではないかなというふうに思いました。場所が情報という知られてないというところで、場所とすれば第一義的には、やはり区の施設をもっともっと使えるようにしたいというのと、今茶話会みたいなお話もありましたけど、家庭の開放でゲストハウスとか家族単位でそういうものをここでやるというようなこともいいのかなというふうに思っています。こういうことをできる道筋を付けてあげればというふうに思っています。

それから今言った非常に閉鎖的とは言いませんけれども、意識は高いのだけれども町会、地区会等のイベントをもっと活用できるようにするというようなことも必要かなと思っています。ただそのためにはやはり交流コーディネーターみたいな人がいるだろうと國分さんのインタープリターの話もそうですけど、やはりこれを作らないと、この辺の話はできないのかなというふうに思っています。あとは世代間ということで国際理解共通なんか、こういう家族単位できると、区民ができるというぐらいの簡単なもので、まず身近なものから、区民全体レベルからエリア全体で、そういう区民レベルでできればいいかなということで、そういうような世代に応じたプログラムということで、子どもであればスポーツでしょうし、年配の方であれば伝統文化、得意な地域の方、人材はたくさんいらっしゃるし、今お話があった女性の視点で集めるというようなことで、そういったことで少しプログラムを準備して、それをチョイスしてできるようなことができればいいかなと思いました。

○**伊藤委員**：特に文京、先ほど特徴に古い伝統的なもの、建物、お寺とか神社とかあるわけなので、そういうところをちょっと開放してもらって何かができたらいいかなと思っています。それから外国人をたくさん見掛けますが、どういう目的で見えているのかなということが分からないので、どうにかしてそういうことが分かれば、地域で何か受け入れてあげられる活動ができたらどうだろうかというのを思ったりします。それからこの間和敬塾を見学させていただいたのです。そうしたら地の利的には早稲田大学が近いということがあって、1つの棟の中はほとんど早稲田の大学院生が入っています。この人たちが「ただ、大学と和敬塾を往復しているという例が多いです」と管理人の方が言っていました。そういった方たちの活用が何かできないのだろうか、もったいないというふうに思いました。

それからあと先ほどフリーダイヤルとかインターネットの活用とかあってありましたけど、区民の方は結構区報をよく見えていますね。区報とか文化系だとスクエアをよく見ている方が多いです。ですから、やっぱり何か外国人向けの交流の起点になるような新聞とか、こういったようなネットをつくってあげたらどうだろうか、そしてそこで求めているイベントをやったらもう少し集まってもらえるのかという、そんなことを思いました。あとこれに近いのですが、文京区に在学中の人たちに、せっかくですので教育ボランティア的なことをやらしてもらえないだろうかという思いが、ちょっと似たようなものが入っていたのでこれはやめます。

○**佃委員**：あまり細かく分からないので、交流ということがテーマに出ましたので、交流に対しては、

1つは先ほどありましたように施設の問題とか、そういったことをベースにしながら、大学でも今留学生がどんどん増えておりますので、国際村的な要素ということで、お台場じゃないですけど、文京区立国際村という、そういうのも1つの交流の場所ということで、何か考える方はないだろうかというところですか。限りがあるとは思いますが。それからもう1つは、これは私どももちょっと関係あるのですが、大学とか留学生寮にイベント、そういったものをできるだけ文京区が少し仲介して協力できないか、あるいは大学もみんなで一緒に何かするという、若者が一緒に何かするというようなことのチャンスづくりですか、あまり強制はできないことですから、そういった流れはどうだろうか、そのときに多分若者はそのイベントの中で高齢化社会のいろいろなことにテーマで話したいとか、外国の留学生にアピールしたいとか、いろいろあるかとは思いますが、そういったことが1つ。

あと文京区のアピールとして、外国人の先生も今増えていて日本語もできる先生が多いんです。大学に協力してもらって、そういった先生たちの話で文京区を見てもらいつつ、日本の文化やいろいろなものを見てもらう機会をやると。それは文京区民というよりも、文京区の知識をほかの国へサービスするということです。つまり大学がたくさんありますから、ほかの区ではなかなかやりきれないことを、外に向かってサービスしてあげるという意味では、ちょっと文京区民のためではないんですけど、でも「文京区はここに有り」という存在感が出て来る、知的な側面が。しかも外国の方を中心にできる。

例えば今、宿舎に韓国の元大使が泊まっているんですけど、今回の韓流ブームをつくったきっかけになったんです。その方が大使になる前までは日本は敵だとか、そういう韓国の風潮があったのを、彼は心配しないで日本の文化を全部受けなさいと。その代わりに、韓国の文化も全部やりなさいということで、今日の基礎を築いたのです。そういった辺りなんかもあっちこっちにおられるので、東大なんかもたくさんおられるのではないかと思うので、もしそういう機会があればやったらどうかなと。

これは本当の身近なことで何回も時々言ったりするのですが、外国の方がどんな感覚で文京区をみたいと思っているか、好奇心の度合いを、やっぱり知っておく、発信は自分が「こうだ、いいんだ、いいんだ」と言ってもすれ違いになるので、日本人が作ったアピールマップはあるのですが、外国人が便利だなとか、こんなには面白いなというような視点も少し取り入れたものを遊び心で作って見たらどうかなという、それで一緒に、学生さん同士、例えば大学生が、こういうのを好きな人、マンガグループが集まってちょっと作ってみる、というのもいいのかなと思います。

**○森岡委員：**私は国際交流のフェスタをちょっとお手伝いさせていただいているんですが、それに関係しまして先ほどもお話がありましたように、各地域のイベントにもう少し国際色を入れることによって、いろんな方に国際という窓口になってもらえるのではないかと。それが最終的に2月にやっておりますフェスタに結び付いてくる。するといろんな方がまた集まってくるというのが1つです。

それからアカデミーにはほかに4つの分科会がありますけれども、先ほどもちょっと触れましたように、スポーツを通じた国際交流というのが当然あるわけですから、そのセクションにおいて、そういう興味のある人が必ずおられます。そういう人に窓口になってもらって、ある程度そちらのほうはそちらのほうでまとめてもらって、最終的に国際分科会と調整するというふうなことが必要かと思えます。それから、やはりこれも区民にできるだけ国際交流という理解をしていただくという意味から、先ほどもお話がありましたけれども、過去にいろんな外国へビジネスで行ったり、観光で行ったり留学したりという方が当然文京区には多くおられると思うのですが、そういう方に集まってもらう。そういう方が大勢いればいるほど国際交流のいろんなシンクタンクといういろんな意見集まる。それには集まる場所があればよりいいのではないかというふうに思います。

それからもう1つは先ほど話しましたように、今若者が非常に外国のほうを向いてないということから、文京区の小学校、中学校を対象にいろんな国の紹介をまず、学校の授業の中、放課後でもいいと思いますが、私どもが今やらせていただいているのは、区立の学校ですが、論語を学校の授業以外で何回か実際にやっている小学校もあります。私が今考えているのは、私もその論語のほうでお手伝いしているのですが、中国、台湾の子どもと近々で交流したいということ今具体的に考えています。それは多分実現する段階になれば文京区のほうにいろいろお願いしたいと思っておりますが、そういうことを考えております。ですから、まず子どもたちに外国に目を向けさせる。興味を持ってもらう。大使館は日本にもたくさんありますが、大使館にお願いすれば多分来てもらえると思います。その国のいろんなこ

とを子どもたちに話してもらおう。そういう機会をぜひ設けてほしいと思います。

○**久松座長**：ありがとうございます。時間が8時半を2分超過いたしましたので、本来ならば、この後この問題解決策を事務局のほうにグルーピングしていただきまして、またそのグルーピングがどうなのかというようなことを議論したり、それを議論している中で、またこういう解決策もあるなというようなことが出て来るということだと思えます。今、区のほうからあり得る見出しが貼られ始めておりますが、あえて今日はここで止めたいと思います。

多分事務局のほうは、我々が帰るときに、グルーピングをされて、それでそれを多分文書に起こされて、我々のところにはものが来て、あたかもこれで決まりのような感じはしますが、今回はこれをまた、ごちゃごちゃにするところから始めるような、私は勝手な気分です。ですので、事務局のほうでは作業をそのまま続けていただきまして、それで次回のスケジュール等、橋本さんからご確認いただきたいと思えます。

今回はまたこのグルーピングのところを事務局からご確認いただいて、これでいいのだろうかというようなことを検討し、それで解決策として出す、というようなこととなります。その前の段階で、ここまでの流れのところ、今日はかなり根本的なお話もあったところですから、振り返っていただいて、あえてここで要というようなことも第2回のところ、分科会のところをお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

○**事務局**：次回以降のスケジュールにつきましては席上配付いたしました今後の分科会スケジュールのとおりとなります。国際分科会につきましては、5月17日月曜日、時間は同じ午後6時半～8時半までとなっております。ご欠席される場合には、お手数ですが事前にも事務局までお電話、ご一報いただけますようお願いいたします。

○**久松座長**：そのほかに何かあれば。

○**事務局**：席上配付をいたしました文京区アカデミー推進計画策定協議会の分科会ご意見シートにつきましては、4月27日火曜日までに本日の分科会についてのご感想・ご意見、またはお気づきになられたことなどがございましたら、ご記入いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○**久松座長**：ここに何でもよろしいかと思えますので、例えば感想・意見とか、それから問題をこれも思い付いたとか、解決策はこれを思い付いたとか、ちょっとそういう見出しを付けていただければ、今後の我々の議論にとっても参考になると思えますのでよろしくお願いいたします。この意見シートに、例えばメールとかでもよろしいですか。やはりこれに書いたほうがよろしいですか、ファックスで？

○**事務局**：はい。

○**久松座長**：そうですか。もし、メールのほうが便利だと、手書きだと漢字を調べなきゃいけないと。私はだいたいそういう感じになっておりますので。ということでしたら、こういう「第1回分科会ご意見シート」というような、もしくは「意見シート」というような、そういう件名でお送りいただければ事務局のほうでそういう形で整理していただけるかと思えますので、恐れ入りますがよろしくお願いいたします。

○**小野委員**：今、いろいろとご議論いただいたのですけれども、いろんな視点があつて、お話し合いいただけた。外国人の側から見た視点、それから日本人の側から見た視点、その中でどうしても外国人の方に何かしてあげるとか、受け入れというのはどうしても主な形になっていると思うのです。それに今度付け加えて、できれば外国人はお客様ではなくて、外国人の方に何かしていただく。さっき伊藤さんがおっしゃったようにボランティアとして教育をしてもらうとか、佃さんがおっしゃったように文京区の発信をしてもらうとか、その辺、外国人に何かしてもらうというのも、ちょっと解決策としてもう少



し入れていただければいいかなと思っておりますので、よろしくお願いします。

○久松座長：じゃ、その辺りを含めて意見シートを広げていただければというふうに思います。私のほうから1つ、さらにちょっと重いものを事務局のほうにご準備いただきましたので、ご配付いただければというふうに思いますけれども。事務局のほうは東京都区市町村の国際政策の状況というものをコピーしていただきました。これがあると他区に比べて競争している我々という、そういう視点も出て来るかと思しますので、意見シートに何か書くことあったかなと思っている方も、これを見ていただければ「あ、これは！」ってということで、多分膨大な論文が出来上がると思しますので、事務局を困らせるぐらいお書きいただければというふうにお願ひします。

何か事務局、それからほかの方、委員の方、ちょっと言っておかなければというようなことございますか、よろしいですか。ではこれで第1回文京区アカデミー推進計画策定協議会国際分科会を終了いたします。お疲れさまでした。

以上